

\*\*\*\*\*

一部50円です

\*\*\*\*\*

## 権現山

家から見た権現山は、でんと腰をすえて座ったような山であった。幼かった私は、目の前の山が自分の前に立ちふさがり、外の世界に憧れる自分の進路を邪魔するかのよう感じた。山は美しいだけではないのだ。

権現山は、いったいどんな山なのか。登れば自分の想いを晴らせるかもしれない、と思い小学生の時、同級生の片山君を誘い登る約束をした。弁当と水筒を持ち彼の家まで歩き、さらに登り口があると聞いた坂原まで歩く。「なあ、よっちゃんよ、登れるやろか?」「さあ、行ったことないでわからん」「熊とかイノシシとか出会おたらこわいのう」「せやのう、その時は逃げて木に登ろう」などとしゃべりながらどんどん山道を登っていくと杉がなくなり熊笹になった。道は笹に覆われて消えてしまった。

「なんにも見えへんで。どうする、なあ」「高い方へ登ったら」「どこが高いか分からへん」「木に登ってみよか」あたりの高い木をさがしてなんとか登ってみる。そんなことを幾度も繰り返してようやくこれ以上高いところがなさそうなところに登った。「もう、ここより高いとこないでよ」と言いながら彼は木に登っている。私は「わしも、登るわ」と言いながら笹をかきわけて木に近づきしがみついて登った。笹の丈より高いところまで登ってみると、川向うの山裾に小さな家がいくつか見えた。彼が「あれが、おまえとことちがう?」私は戸惑いながら「えっ、あれが?」まさかそこが我が家だとは思えなかった。「ちがうで、あんなどことはちがう」「ほんなら、あれはどこや?」と彼は言う。隣の村ではないかと考えたが、どうもちがう。やっぱりあれなんやろか。なんとちっぽけな村で米粒みたいな家々だ…。

北をみると果てしなく山並みがつづき雲の間に海らしきものが見えた。きっと日本海だ、と思ったが、わが村への落胆のためか素直に景色が楽しめない。もう一度、我が家をのぞくように見た。村道から我が家への脇道、母屋、小屋や蔵がある。情けないほど小さい。自分が暮らしている世界が箱庭のように思えたのだ。40分も歩いて通学している道も線のように山間を通り学校まで続いている。わずかな距離に見えた。

家に帰り権現山を見ると、山は「よく登ったなあ」とほめてくれることもなく、いつものように黙って座っていた。しかし、今になって思えば山は「人は小さな世界で生きている生き物なんだ」と教えてくれたんだと思える。(嘉)

## 女人結界4

仏教の女性差別観が受け入れられ、定着するのはいつか。

歴史学者の平雅行さんは、「三従」「五障」「龍女成仏」(女性は変成男子のち成仏できるという教え)「転女成仏」(変成男子を説いた教典)という差別文言が登場する史料の集計をもとに、仏教的な女性差別観は九世紀後半に登場して、十、十一世紀に貴族社会に定着したと結論づけている。民衆社会への浸透はもう少し時間がかかる。

九世紀後半は、律令制が行き詰まって、都の保全がおろそかになり、疫病が深刻な問題となるころである。十、十一世紀は清少納言や紫式部が活躍した時代である。古代から中世へ時代が動くころに仏教の女性差別観は日本の社会に浸透していった。

仏教界にも変化が起こる。尼の地位の低下である。八八〇年に奈良の西隆尼寺が西大寺の支配下に入るが、そのとき西隆尼寺の尼たちは西大寺の僧侶の衣服の洗濯を命じられる。奈良時代の尼の職能は国の平和と繁栄を祈ることであったが、いまや国家の祈禱から洗濯に変わったのである。

尼寺は減少の一途をたどり、平安後期には国に認められたプロの尼は消滅する。プロの尼が消えても、私的に出家する後家尼が膨大に存在した。彼女たちの意識に罪障感が根づいていくのである。



## 空想の世界

梵店主

よっちゃんは想像することに楽しみを見いだした。なんともならない病状をいくら考えても仕方がないからである。

大学病院は大きい街のようなものである。無いのはタバコ屋、飲み屋などであるが難病のよっちゃんには好都合であった。あれば、すぐに手をだしたくなるからである。

入院してまず想像したことは、この大きな病院はどうして経営されているのか？医者や看護師、その他多くの職員が働いているが、人件費だけでも大変だ。みんな若くて賢い人たちばかりだから、安い給料ではないだろう。建物や医療機器をみても大変な設備投資である。いったいどのようにして資金を調達しているのか？など疑問は尽きない。

よっちゃんの相部屋は12階の北側にある。同じフロアの南に内分泌科の病棟が続いている。談話室は共同使用だから前立腺の患者たちをいつもみる。

よっちゃんのいる北病棟には、個室と相部屋が合わせて50室ほどあり50人ほどが入院していた。どういうわけかかなりのベッドは空いている。看護師は昼

は25人である。医師は研修医たちで25人ほどだ。それに看護助手、清掃関係者などがいた。

よっちゃんが一番気に入ったのは、空調の素晴らしさである。いつも室温と湿度が完璧であった。隣のベッドにいた東京から来た爺様もいつも空調をほめていた。それと徹底した清掃である。廊下やトイレなどにはいつもピカピカで病室も毎朝清掃がされ、ワックスがけも定期的におこなわれる。

いつもの人だから親しくなる「おはようございます。毎日ごくろうさまです」とよっちゃんは清掃に来る人に声をかける「いや仕事ですから」と言いながら彼は隅々までピカピカにしてくれる。よっちゃんは話しかける。「いい仕事ですね、僕も、もし退院出来たら就職したいなあ」と言うと彼は「なかなかむずかしいですよ、コネがないと。私は公務員を定年退職して運よく入れましたが：」「なるほど、空きがないんですか」「みんなねらってますからね。5時前には帰れますから、給料は安くてもいいんです、年金がありますから。仕事があるのがうれしいです。家にいてもすることがないですから」「嫁はんに嫌われますからね。あなは恵まれてるんですね」「しかし、この仕事けっこういろいろ言われますから注意しないと。こうして話していると後で告げ口されたりしますから、それでは失礼します」こんな具合に毎日ことばを

交わす。彼から聞く話はおもしろい。特別室の事や他の患者の様子など聞けるからである。

ざっと考えて、この病院には1000人の看護師、1000人の医師や医学生、検査技師や職員が300人ほどいるだろう。その他給食関係、清掃、食堂、コンビニなどの関係者が500人ほどか。入院患者が1000人、外来患者が700人、隣接する研究センターの研究者が300人、見舞い客が多い時で2000人ぐらいか。

一日の病院の収支を考えた。入院患者、外来患者から4000万円、薬剤、手術等が2000万円、コンビニなどからのテナント収入が1000万円、これらを合わせると6000万円ぐらいか。

支出は看護師、検査技師などの職員1300人の給料が3000万円、薬代や機械の維持費、給食費などが4000万円ぐらいかな。教授は大学から給料をもらっているからいらぬ。多くの研修医も大学院生だからいらぬ。もちろん、院長や一部の医師たちや夜勤手当などには給料を払わなければいけないだろう。その結果、1000万円が足りない。赤字なのだ。年間36億円の赤字である。もし赤字をなくすなら、看護師を半減するか、治療費を2割上げねばならない。とりあえず1割のアップと節約でしのが妥当かな。

一番大きなのは、医療機器だろう。CT、MRなどの機械はすごいぶん高そうな機械だ。億を超えるに違いない。そんなのが病院には何台もある。紙カルテから電子カルテになっているから、これの維持費も大きいはずだ。

儲かっているのは、製薬会社と医療機器会社だろう。コンビニも一軒だけだから1万人の市場を独占している。

よっちゃんは、いろいろ頭の中で計算しながらこの病院は赤字経営だと判断した。これだけ多くの人を動かし、人命を預かるシステムを維持し続けることは至難の業である。

病院が赤字だということは、患者が払う治療費を超えたサービスを受けているともいえる。特に、よっちゃんは特定疾患であるから、治療費や入院費もほとんど要らない。誠に申し訳ないが皆さんの税金で入院させて頂き治療を受けているのだ。文句を言う立場にはないのである。

病院は善意に満ちた空間である。病院経営は企業経営とは違う。大学病院は常に患者のための研究をし、医学生を育てる場なのだ。

無給の研修医たちの熱心さには幾度も頭が下がった。あらためて医者は儲からない大変な仕事だと思ったのである。

## ダイエットしたはいいけれど…の巻

まったく「なんてこつたい！」である。おダイエット。「あ、リバウンドした？」と思つたあなたは多分、ダイエット経験者。期待に添えなくて悪いが、リバウンドはしていない。別に自慢できるほど痩せたわけではないが、それでもマックスから計算するとマイナス7キロ。もとがチビだから、7キロは結構、大きい。

だのに！ 全然、痩せて見えない。下ぶくれのお饅頭顔がそのまんまで、元より少々痩せたというだけだからである。それだけでも十分「なんてこつたい！」だが、もつとえげつない「なんてこつたい！」が起きた。太ももとか腹まわりとか二の腕とか、皮膚がトリ肉の皮状態になつてしもたんである。百八歳ぐらいのお肌、といえはわかつていただけるだろうか。ちりめんシワんシワん(泣)。

初めて見たときは、正直、「えっ？」と思つた。「なんじゃこりゃあ〜」と松田優作のごとく叫びそうになつた。そりゃ、はちきれるほど入つていた脂肪が減れば、その分、たるむ。理屈はわかるが、それにしてもエゲツナイ。

これでは、盲腸になつても病院に行けない。医者や看護師さんに笑われる。「なに、この人？ トリ肉？」と言われるに違いない。この間までは「ブタ肉」だったのに。

つくづく思つた。何事にも時期というものはあるのだ、と。ダイエットをするなら、もつと皮膚再生能力が高いうちにしなければいけなかつた。

私は呑気というかおバカというか、人生で「時期を逃すとできない」というのは妊娠・出産だけだと思つていた。ほかのことは本人さえその気ならいっ何をしてもいいのではないかと。

しかし、たつた7キロ減で、何十歳も老けた肌にはなるものであろうか。脂肪、あなどれぬ。顔はともかく体はそんなに老けないと思つていたが(他人に見せないから勝手な解釈)、すべて脂肪がなせるわざだったので。はつちはちに太つていれば、そりゃ、多少はシワだつて伸びて見える。

ここまで読んでくれた人のなかには「ロクに栄養を取らずに体重を減らしたから、シワシワになつたのでは」と医学的見地から心配してくれる人もいるかもしれないが、私が実践したのは糖質制限ダイエット。糖質以外なら、何でも食べたいだけ食べていいという、ゆるいやり方だ。糖

質制限を提唱する本を書いた先生は

糖尿病の人はしっかり制限すべし、そうじゃない人は「プチ制限」でもいいと書いている。私の場合、多分、糖尿病ではないと思われる(何年も健康診断を受けていないから、たとえガンになつていてもわからない状態だ)ので、「プチ」本によると、一食だけ主食を抜けと書いてあるが、私は勝手に「プチプチ」にした。完全に抜くのではなく、減らすだけ。

しかしである、それだけでも正直、大変なんである。前号に書いたが、私は胃腸が丈夫な大食らい女である。酒は弱い、無類の酒好き。ギョウザとビール、たまりまへんな。カレーにもビール。お好み焼きとビールは世界遺産に認定してほしいぐらい好ましい組み合わせだと思つているけど、そのビールが糖質。粉もん、当たり前だけど糖質。果物も糖質。先生はアボカドとレモン汁は糖質ゼロだと書いているが、そんなもん普段から食べてませんから！。私が普通に食べているものほとんどが糖質だつたと言つていい。私だけではない。ハッキリ言つて、町は「糖質屋」さんで成り立っている。パイン屋にケーキ屋、ラーメン屋にうどん屋、蕎麦屋、定食屋や中華の店もメニューのほとんどが糖質ベース。パスタの店も和菓子屋も。家で作るものもそう。例えば、ジャガイモサラダ、煮物、おでん…、ほとんど糖質！

お菓子を食べてはお茶を飲み、ビールを血液に替えて生きてきたのに、「あれも糖質、これも糖質」。涙ぐましい努力でそれらを制限して、ちよつとばかり体重が減つたと思つたら、驚愕のお肌トリ皮現象。「なんてこつたい！」と叫びたくなる気持ちちがわかつていただけだろうか。

そろそろ糖質制限に飽きて止めようとしておるな、と思われそうだが、意外や「ここまでできたのだ、続けてやる！」と燃えている。「ダイエット・ハイ(辛いことを続けているうちに快感に変わるとかいうやつ)」というものがあるとしたら、私は今、それにかかつて。「背中ブラ」1900円。ブラジャーは下着の店で買うものだと思われそうだが、いまどきは情報とセットにして本屋で売られている。いわく「お腹が凹む、背中の肉が取れる」。肩甲骨の間にある代謝をあげる赤筋を刺激するよう丸い玉がついている。次に「絶対小顔コルセット」、こつちは「いててっ！」で1回で諦めたので1500円をドブに捨てたも同然だが、買ってみなければわからない。どちらもレジに持つて行くのがほんとと恥ずかしかつた。ダイエットには確かに年齢制限がある。(つづく) AO

## 水の星・地球

― 最終回をむかえて

坂本一光

### ○いのちは金で測れない

地球の表面積の70%は海で、海の平均の深さは3800mである。陸地の平均高度は623m、陸地の表面積の10%は南極氷床やグリーンランド氷床などを中心とする氷河で覆われている。地球はまさに水の星である。

水はその極性によってさまざまな物質をよく溶かし、あらゆるところに流動・浸透し、物質に化学反応の場を与え、そのことによつて物質から化学エネルギーを引き出す。水は地球を循環しながら、生命界においても物質界においてもそのように働く。水はまた、その極性によつて強くつながり、熱しにくく冷めにくい性質をもつ。それは地球環境の維持にも、生命の維持にも不可欠な役割を果たしている。地球を地球たらしめ、生命を生命たらしめるのは水である。

地球が誕生して46億年。地球が水の星になり、化学進化と呼ばれる物質の進化が進み、何億年かが経過したあるとき物質系から生命系への飛躍が起こった。生命は絶滅を繰り返しながら長い時間をかけて進化し、その最終

段階（現在からみて）において人間に至った。人間は46億年をかけて地球の自然が生み出した生命体である。

さて、人間の物質構成の内訳を次に示す。出典が違い、数値は目安である。

#### 1 身体を構成する元素の重量%

酸素 65 炭素 18 水素 10 窒素 3  
その他の金属と非金属元素 4

#### 2 身体を構成する化合物

水が65%以上、残りの大部分はタンパク質、脂肪、炭水化物など

#### 3 体重70kgの人の身体構成物質のよく知られた物質への置きかえ

水 40リットル 炭素 20kg  
アンモニア 2.7kg 石灰岩 1.5kg  
りん 800g 食塩 250g  
硝石 100g イオウ 80g  
マグネシウム 50g フッ素 7.5g 鉄  
5g ケイ素 3g マンガン 3g アル  
ミニウム 1g

これらの物質をすべて材料として買うと、5千円もしない。しかし、地球上にあつたありふれた物質が集合し一つの小さな生命が生まれ、進化し、人間に到達するのに自然は36億年の歳月をかけた。逆に、この生命を破壊し元の物質に還元するにはほんの瞬間的な時間でよい。人間の物質的な構成と生

きている生命との間には、何ものも超えることのできない、実に大きな質的飛躍がある。生命にはかけがえがない。

### ○「人間」という商品の広告文

『…この宇宙には四千億もの太陽が、星があると申します。それぞれの星が平均十個の惑星を引き連れてあるとす

ると惑星の数は約四兆。その四兆の惑星のなかに、この地球のやうに、ほどのよい気温と豊かな水に恵まれた惑星はいくつあるでせう。たぶんいくつもないでせう。だからこの宇宙に地球のやうな水

惑星があること自体が奇蹟なのです：水惑星だからといつてかならず生命が誕生するとはかぎりません。しかし地球にあるとき小さな生命が誕生しました。これも奇蹟です。その小さな生命が数かぎりない試練を経て人間にまで至つたのも奇蹟の連続です。そしてその人間のなかにあなたがあるといふのも奇蹟です。かうして何億何兆もの奇蹟が積み重なつた結果、あなたもわたしもいま、ここにかうしてゐるのです。わたし

たちがゐる、いま生きてゐるといふだけでもそれは奇蹟の中の奇蹟なのです。かうして話をしたり、だれかと恋だの喧嘩だのをすること、それもそのひとつひとつが奇蹟なのです。人間は奇蹟そのもの。人間の一手一投足も奇蹟そのもの。だから人間は生きなければなりません』

（井上ひさし『きらめく星座・昭和オデオン堂物語』に登場する広告文案家による「人間」という商品の広告文。原文の仮名遣いのまま。集英社文庫1988年刊による）

水の星、生命の星である地球の奇跡、そこに生きる人間の奇跡に想像がひろ

がる。すべて奇跡は水から始まつた。

### ○水の星・地球を生み出したもの

く太陽からの距離と大きさ

地球のデータを金星、火星とともに比較してみると表1のようになる。

地球と、金星および火星との違いは紙一重ほどであるが、それが決定的な意味を持ち、地球は太陽系で生命が発生した唯一の奇跡の惑星になった。決め手は、太陽からの距離と大きさが絶妙で、大量の液体の水（海）が存在できたことである。液体の水が存在できたことには、すでに触れた水の秘密（分子の形と強い極性、そして

表1 金星・地球・火星の物理的データの比較

	金星	地球	火星
表面温度	460℃	15℃	-55℃
大気圧	90気圧	1気圧	0.006気圧
大気成分	二酸化炭素(96%) 窒素(3.4%) 水(0.14%)	窒素(78%) 酸素(21%) アルゴン(0.93%) 二酸化炭素(0.03%)	二酸化炭素(95%) 窒素(2.7%) アルゴン(1.6%) 酸素(0.13%)
質量(地球=1)	0.815	1	0.167
半径 / km	6050	6400	3400
重力(地球=1)	0.91	1	0.38
公転周期	0.62年	1年	1.88年
自転周期	243日	1日	1日
太陽からの距離(地球=1)	0.72	1 (1億5千万km)	1.52
太陽から受ける熱(地球=1)	1.91	1 (大気圏外で1.36kW/m <sup>2</sup> )	0.43

それに基づく水分子間の水素結合による強いつながり)が深く関係する。

### 【惑星の大きさの問題】

火星・火星は金星や地球の5分の1程度と小さく、その誕生時に水素、ヘリウム、二酸化炭素、水などは多量には集まらなかった。これらのガスは重力で引きとめられず、ほとんど宇宙空間へ逃げた。火星の大気は非常に薄い。

金星と地球・金星と地球は大きさが似ている。多数の微小惑星が衝突して誕生したとき相当量のガスが集まったと考えられる。重力がそれほど大きくはないので軽い水素やヘリウムは宇宙空間へ逃げた。相当量の二酸化炭素(約60気圧)や水蒸気(約200気圧)は残り高温高压の原始大気ができた。

### 【太陽からの距離の問題】

太陽から惑星が受け取る熱エネルギーは太陽からの距離の2乗に反比例する。

火星・火星が太陽から受けるエネルギーは地球の場合の40%と小さく、温室効果ガスもほとんどないためやがて冷却が進みわずかの水も凍った。

金星・金星が太陽から受ける熱エネルギーは地球の約2倍と大きく、金星の冷却は地球のように進まなかった。水蒸気は液化して水になることができなかつたと考えられる—どんな物質にも、ある温度・圧力で示される臨界点

があり、臨界温度以下の温度にならないければ物質は液体にならない。水の臨界点は、 $374^{\circ}\text{C}\cdot 218$ 気圧であり、この温度を切らなければ水は液体になることができないのである。(物質は臨界点の温度・圧力以上では気体と液体の区別がつかない超臨界流体になる—どんな状態だろう?見たことはないが、水や二酸化炭素の超臨界流体を利用した化学研究は近年進んでいる)。結局、金星では太陽からの強い紫外線などにより水蒸気は水になることなく水素と酸素に分解した。水素は宇宙へと逃げ、酸素は大気中の一酸化炭素や金星の金属類の酸化に使われたのだから。

地球・太陽から受け取るエネルギーはまさに適当であり、誕生後冷却が進むと大気中の水は臨界温度 $374^{\circ}\text{C}$ を切るようになり、水蒸気は凝縮して液体の水になった。大量の水蒸気は高温の豪雨となって、熱く融けた地表に降り注ぎ原始海洋ができた。蒸発→豪雨→蒸発→豪雨:がどれくらいの時間繰り返したか、この雨は恐らく『近年経験したことのないような大雨』をはるかに超えたものであつたらう。なぜなら今地球にある海水がすべて雨となつて降ってきたようなものだろうから。豪雨と蒸発を繰り返すことで大量の熱が地表から宇宙へ捨てられ、地表

の温度も下がった。当初は塩化水素などの大気中の酸性物質を溶かして酸性の強かった海洋が地表・地中のアルカリ性酸化物である金属酸化物(鉄、アルミニウム、カルシウム、マグネシウム、ナトリウム、カリウムなどの酸化物)と反応して中和されると、大気中の二酸化炭素の海洋への大量溶解が始まった。二酸化炭素は石灰岩(炭酸カルシウム)として沈殿し、大陸へ取り込まれた。太陽から受けるエネルギーは適度であり、やがて大気中に残った二酸化炭素と水蒸気の温室効果で適度な温度が保たれるようになった。海水中で生命が発生した後は、ある種の生物が石灰岩の殻をつくり、また緑色植物の仲間が水と水中の二酸化炭素で光合成反応を起こして有機物(炭水化物)をつくり、これらが堆積することで大気中からはさらに大量の二酸化炭素が海に溶解し除かれていった。今山から掘り出されている石灰岩の大部分は海と生物起源のものである。大気中の二酸化炭素量は産業革命以後の近年の人類活動の影響を除外すれば $0.03\%$ まで減少した。また植物の光合成は最終的に大気中の酸素量を20%までに高めるとともに、さらに大気上空でオゾン層の形成を進めた。オゾン層によって太陽の紫外線から生命は守られ、生命

の水中から陸上への進出が可能と

なった。これらすべては液体の水の存在、水への二酸化炭素の溶解があつて初めて可能になったことである。小さな水分子が折れ線形で強い電気的極性をもつこと、それによって水はさまざまな物質をよく溶かすこと、またそれによって水分子は水素結合を形成して互いに強く結びつくことがそれを可能にした。

### 【地球・一つの奇跡】

太陽から地球までの距離は1億5千万km。地球に液体の水が存在するための条件を、太陽から受けるエネルギーで考えると、地球の軌道は太陽から1億3千万〜1億6千万kmの範囲になければならない。その幅わずか3千万km、太陽系の半径がおよそ60億kmであることを考えれば、3千万kmは $0.5\%$ と微々たるものである。さらにこの幅は、気温が $0^{\circ}\text{C}\sim 100^{\circ}\text{C}$ の間にあるための条件で、水が地球上のように氷・水・水蒸気という3つの状態でバランスよく存在できるための条件はもっと厳しくなる。そのような位置に適度な大きさの地球が誕生し、そしてそこに大量の液体の水が存在したことは、一つの奇跡である。この奇跡のうえに生命が生まれた。すべては水から始まった。

(太陽系における水惑星・地球の誕生については、松井孝典著、『地球・宇宙・そして人間』および『地球・46億年の孤独』、徳間書店、それぞれ1987年および1989年を参照した)

## ○おわりにー自然は人間の容れもの

科学・技術は人間が行う活動である。それは善悪を言わず、価値に中立である。科学・技術はその本質として人間に対立するものではない。しかしそのあり方は社会に規定される。そうであれば、科学・技術は、いつかはもつと桁違いに、人間の美しさを守る武器になるだろう。社会がそのように科学・技術を規定する日が来ないとは誰にも言えない。そうでなければ、科学・技術がどんなに高度に発展しても、未来に希望はない。

人間は何のために学ぶか。学ぶとはどういうことか。『人間はどう生きてきたかを知り、自分はどうかと問う』、それが学ぶということ、そのように学ぶうと大学案内で呼びかけた大学があった（国際基督教大学、10数年前の大学案内にあった言葉）。『人間が生きてきた内にあるか、それを知るために学ぶのだ』、と山田洋次監督の映画『学校』は訴えていた。

原子力発電所の事故は、科学・技術の粋を集めても事故は起きる時に起き防げないこと、自然に想定外はなく想定するのは人間の都合にすぎないこと、起き得る事故を想定もせず備えを怠れば（いや、事故を想定し備えたとしても想定を上回る事態のなかで事故が起これば）被害は広がること、事故に至らなくても短くとも数万年にわたる核廃棄物の処分・管理の備えなど事実上まったくないこと等々を露呈した。そして、信じられないほどの錯覚または思い違いが水に対してあった（としか思えない）。軽水（普通の水）炉型原子炉では、安定した運転にも過酷事故時にも水は欠かせない。しかし、故時にも水は欠かせない。しかし、欠かせないものへの万全の備えはなかつた。水は、あまりにもありふれた、ただの水にすぎないからだろう（これが特殊な資材や薬剤であれば、これが特殊な資材や薬剤であれば、もう少しは備えがあったのではない）。まして核燃料が融け落ち格納容器を破壊するような事故が起きると、地下水も加わってその水がコントロールできないほどの大量の核汚染水を生み出すことなど誰が想像したか。すべての事態は自然の法則に従って進行しているのに。

「世界一の億万長者になりたい」、「世界のグローバル企業になりたい」、「これから人間は1億円稼ぐか100万円しか稼げないか、どちらかの人間に二分される」等々、独善的で偏向した思想は

ないだろう。こんなことを言うのは素老人のたわ言に違いないが、老人のたわ言は見方を変えれば若者の夢。夢が実現しなければ、歴史の進歩は歴史の進歩を、私は人間が生きていく幸せの実現の進み具合で定義する。そうすると、日本の歴史は思ったほど進歩していないね。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原子力発電所の人災事故は、自然に対する、とりわけ水に対する私の見方・考え方を変えた。それは同時に社会や国のありようをみる私の目を変えた。1995年1月17日の阪神・淡路大震災は自然の前では人間がなしていることがいかに無力であることを示した。個人も社会も暗黙の裡に変わることはないと見ていた町の風景が、一瞬の間に一変した。3月に町を歩くことがあった。一階が押しつぶされ傾いたビルや横倒しになった高速度道路があった。写真は一枚も撮れなかつた。これは見ておくべき風景、大きな犠牲の上に、永遠に変わらぬもの、永遠に動かぬものなど何一つないことを劇的に示した風景であった。∞は「1」の16年後のことである。その間社会も国も変わって

「世界一の億万長者になりたい」、「世界のグローバル企業になりたい」、「これから人間は1億円稼ぐか100万円しか稼げないか、どちらかの人間に二分される」等々、独善的で偏向した思想は

ないだろう。こんなことを言うのは素老人のたわ言に違いないが、老人のたわ言は見方を変えれば若者の夢。夢が実現しなければ、歴史の進歩は歴史の進歩を、私は人間が生きていく幸せの実現の進み具合で定義する。そうすると、日本の歴史は思ったほど進歩していないね。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原子力発電所の人災事故は、自然に対する、とりわけ水に対する私の見方・考え方を変えた。それは同時に社会や国のありようをみる私の目を変えた。1995年1月17日の阪神・淡路大震災は自然の前では人間がなしていることがいかに無力であることを示した。個人も社会も暗黙の裡に変わることはないと見ていた町の風景が、一瞬の間に一変した。3月に町を歩くことがあった。一階が押しつぶされ傾いたビルや横倒しになった高速度道路があった。写真は一枚も撮れなかつた。これは見ておくべき風景、大きな犠牲の上に、永遠に変わらぬもの、永遠に動かぬものなど何一つないことを劇的に示した風景であった。∞は「1」の16年後のことである。その間社会も国も変わって

「世界一の億万長者になりたい」、「世界のグローバル企業になりたい」、「これから人間は1億円稼ぐか100万円しか稼げないか、どちらかの人間に二分される」等々、独善的で偏向した思想は

ないだろう。こんなことを言うのは素老人のたわ言に違いないが、老人のたわ言は見方を変えれば若者の夢。夢が実現しなければ、歴史の進歩は歴史の進歩を、私は人間が生きていく幸せの実現の進み具合で定義する。そうすると、日本の歴史は思ったほど進歩していないね。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原子力発電所の人災事故は、自然に対する、とりわけ水に対する私の見方・考え方を変えた。それは同時に社会や国のありようをみる私の目を変えた。1995年1月17日の阪神・淡路大震災は自然の前では人間がなしていることがいかに無力であることを示した。個人も社会も暗黙の裡に変わることはないと見ていた町の風景が、一瞬の間に一変した。3月に町を歩くことがあった。一階が押しつぶされ傾いたビルや横倒しになった高速度道路があった。写真は一枚も撮れなかつた。これは見ておくべき風景、大きな犠牲の上に、永遠に変わらぬもの、永遠に動かぬものなど何一つないことを劇的に示した風景であった。∞は「1」の16年後のことである。その間社会も国も変わって

しかしサカナは気づき始めている。この容れもののなかでは、世界を問うことと自分を問うことが驚くほど近くにあることに。

## 認知療法

伊藤 明(精神科医)

認知療法について解説を続けます。

パスカル『パンセ』(中公文庫)によれば、人間は考える葦である。『人間は、ひとくきの葦にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。だが、それは考える葦である。彼をおしつぶすために、宇宙全体が武装するには及ばない。蒸気や一滴の水でも(ここにも水が引用されている!著者注) 彼を殺すのに十分である。だが、たとい宇宙が彼をおしつぶしても、人間は彼を殺すものよりも尊いだろう。なぜなら、彼は自分が死ぬことと、宇宙の自分に対する優勢とを知っているからである。宇宙は、何も知らない』人間は考える葦である。そして、想像する葦である。一滴の水の背後にも全宇宙が存在する。

人間は地水火風自然の子 (完)

「ありふれた奇跡■水の話をしよう」の連載をこれで終わります。硬い、ときどき軟らかい長話にお付き合いをいただき、ありがとうございます。ありふれた水にこれまでとはちよつと違った目を注いでいただければ幸いです。

(自然はまちがわれない、まちがうのは人間である・大分の素老人)

◆前回ご紹介した「ストレスに弱いこころのくせ」は、代表的なものを5項目あげましたが、実はまだ他にもあります。ここでもう一つの項目を紹介しておきます。

それは「他人のこころの先読み」というものです。これは「相手がどう思っているか、先まわりして解釈してしまふ」というもの。相手がちよつと顔をしかめたことから、自分が悪く思われているのではないかと思ってしまうといった場面がこれに当たります。相手が言葉ではつきりとした意思表示をしていないのに、相手のこころを自分で勝手に想像して自分が悪く思われていると決めつけてしまうものです。いわゆる「顔をうかがう」のが習慣化している状態といえます。これは自分の心配や危惧を反映してその内容は否定的・悲観的なものになりやすいものです。この結果、気分が減入ったり憂うつな気分支配されたりといった反応がでてくることになります。このような傾向は弱い立場にある人が、立場の強い人の「こころを先読み」するという形で生じることが多いようです。

親子関係、夫婦関係、上司と部下、教師と生徒、あるいは友人関係など、固定化した関係が長年続くところのような「こころのくせ」が生じてくるようになります。

「こころの先読み」をする「こころのくせ」を知らず知らず身につけてしまっている人は、生活の中のいろいろな対人場面でこれを発揮してしまうこととなります。「こころの先読み」は比較的小さな兆候によって自分が単に先走って想像しているのであって、相手の気持ちを正確かめてはいないという点にポイントがあります。最終的には言葉によるコミュニケーションで確かめることが必要になってきます。それまでは自分のなかで判断を留保しておくこと、そして結論が出るまでは必要以上にあれこれ想像をふくらませないことが大切です。

さらに言うと、表情や身振りなどはある種のコミュニケーションは可能ではあるものの、言葉によるコミュニケーションと比較すると不正確に伝達され誤解を産みやすいものだということを念頭におくとよいと思います。

◆ここで、認知療法の歴史に目を向けてみます。1960年代のアメリカのアール・ベックという学者が本格的に始めたといわれていますが、そのもとになる考え方は、古代から存在していました。例えばネロの時代のローマ帝国のギリシ

ヤ人奴隷だったというストア派の哲学者エピクテトスの、「人を悩ませるのは、事柄そのものではなくて、事柄に関する考えである。」という言葉に端的に表現されているといわれます。つまり感情を支配するのは、事実そのものというよりも、それをどう考えるかによるのだというのです。悲観的に考えれば当然気分は暗くなります。逆に困難な状況にあっても前向きに考える人もいます。

こういうところでストレスに対して「抵抗力」の有無しが決まってくるというのです。このエピクテトスという人の生きた時代というのは、ローマ帝国の中でも混乱した世の中が続いていたということでした。そういう困難な時代を生きたびた人生の知恵の言葉として考えれば、現代という「乱世」に生きざるを得ない私たちも、ここに含まれる叡知に学ぶにしくはない……。

こうみると認知療法というのはストレスに対する「抵抗力」をつける有力な方法と言えます。しかしストレスに「打ち勝つ」絶対的な方法というものには残念ながら存在しません。風邪には絶対にかからない人がいないのと同様に、ストレスに必ず「打ち勝つ」人はいません。風邪に対する抵抗力をつけることが大事なのと同じようにストレスに対する抵抗力を上げることが大切になってきます。その方法が、自分の考えの中に知ら

ず知らずのうちに湧き出てくる「ストレスに弱いところのくせ」に早く気づき、そこから早く抜け出せるようにすることなのです。

◆認知療法は現実の捉え方を少し修正していくというものです。しかしその人の考え方や感じ方を否定するものでは決してありません。ましてそれまでの経験や貴重な人生観といったものに変更を迫るといったものではありません。私の見方では修正をしたほうがいいのは高々5%程度までであり、他の95%の考えはそのままで十分であり大切に維持していただくのがよいと思います。

「ストレスに弱いところのくせ」の各項目は、これまで長年かかってその人のところの中に染みこんでおり、かつてはその傾向をもつことがプラスに働いていた(とくに項目(1),(2),(3))。つまり「こ

ころのくせ」は過去には適応的であったという事情があるはずなので、それを變更しようとするのは何らかの心理的な抵抗の感じと不安感があるものです。しかし今となつては、そのような「ところのくせ」はその人にとってむしろマイナスに働き不適応的になってしまっているのです。過去においては適切であっても現在では現実的でなくなつた思考、その人にとって不利となるような認識を、「現在の」その人にとって適応的なものに置き換えていくことで、過剰で不適切な感情

反応や感情コントロールの困難なパターンに陥らないようにして、さらに現実的で適応的な思考へと変えていくというのが、認知療法の大きな目標といえると思います。

ただこのことは即座にできるようなものというのではなく、一ヶ月程度以上の時間と、少しばかりの努力が必要になります。とはいうもののこの努力によって自分が落ち込みにくくなって、ストレスに対して抵抗力がついて楽になるといわれる努力になると思います。最近の認知療法の傾向としては、かなり定型的なマニュアルが存在して、それに沿ってなされていくというのが一般的になっていて最近ではいろいろな本が売られていますので、興味を持たれた方はそういうものに当たっていただくのもよいと思います。

◆ここでは私が行っている方法を簡単に紹介しましょう。まず自分が何か憂うつな気分になっているとき、自分の考えていることが「ストレスに弱いところのくせ」にはまっぴりないかをチェックしてみること。このチェックの作業によって自覚するのが重要なことです。感情を伴った自分の考えや感じ方は、おおむね自覚しないところから湧き出てくるものです。一旦その考えの性質を自覚することができれば、次の対処はずいぶん楽になつて

きます。

このチェックをやりやすくするのが前回の五項目の表なのです。私はこれを患者さんにお渡ししてチェックをしてもらいます。そして当てはまっているものがあれば、それはもう「追求をしないで、放つておく」というようにしてもらいます。そういう考えは繰り返して出

てきますが、出てくることに「追求しない」ことも繰り返す・・・。「追求しないで放つておく」ということは、なかなかすぐにはできないことではないので少し根気がいるのですが、一度でもできたという実感をもつことができる気が軽くなりますので、それ以降は比較的楽にできるようになるものです。これだけのことで多くの方がストレスに対して強くなつていくのを、私は経験しています。

◆今回は、この点についてもう少し詳しく考えてみます。そして認知療法と禅との意外な関係も見えてきます。

## 日本の農業はこれでもいいのか

駒田明克

小生、昭和38年に農業土木科を卒業して三重県庁に入り、農業とほとんど関係のない土木部で各種の公共事業に携わってきました。しかし、農学部出身の小生、やはり農業のことが気になり、常に関心を持って居ります。最近「PP」への参加について賛成・反対がそれぞれの立場から激しく議論されています。

この問題に対しての反対の急先鋒は「農協」です。「PP」参加が決まれば、日本の農業は壊滅的な打撃を被り、日本の農業は滅びるといふもの。

まさに、その通りかもしれません。しかし待てよ、よくよく考えてみると、日本の農業は今、活力あふれるものとして食糧生産に寄与しているのか、また、農村は村の繁栄を取り戻しているのかと思つたとき、いずれも答えは「否」です。もはや崩壊しつつあります。

私の知人にも何人か農業に携わっている者があります。彼らは共通して年配者です。しかも、息子達は農業を継ぐ意志はありません。継がない息子達にも、もつともな理由があります。

ある時期、特に高度成長期には都会に魅力的な仕事があり、そちらの仕事



につくため村を離れ都会へ出ていき、そちらで居を構え、いまさら村に戻って農業などやれない、というものです。

昨日、知人の一人が亡くなりました。彼は中学を出てから40年間農業一筋に今日までやってきました。稲作中心に大規模経営には自分の農地だけでは足りないので近隣の農地を請負耕作という形で、自前の耕作機械を駆使して営農活動を続けてきました。彼の息子さんも農業は継ぎません。

近年、農地法が改正され、企業が借地をして農業を出来るやに聞きました。が、これにより色々な業種の企業がこの分野に、「金もうけのネタ」として参入しているようです。都会で有名な飲食チェーン店、全国的に都会の流通業界のトップをいく「ゲループ」など、彼らは様々な近代的な生産技術を駆使して野菜工場等を作り食糧生産を行っております。

これらは、今の日本では法的にゆるされるなら、何をしても容認される時代ですから、これらの企業には責任はありません。しかし、小生の感覚では、儲ければ何でもありか、との思いは拭えません。

それでは、何で日本の農業がここまでダメになってきたのでしょうか。先に、JFAに参加したら日本の農業はダメになると反対の急先鋒のJVA農協、

よく言えたものと呆れます。今日まで日本の農業の中心として日本農業をリードしてきたのは、紛れもない「JA農協」ではないのですか。その結果として、もはや日本の農業は崩壊に向かって進んでおります。その責任を「PPP」導入に転嫁するのは全くおかしいと思えます。

今のままでは、日本の農業は「PPP」参加により大打撃を受けるものと思われまます。そのことと、今日農業をこのような状態にしてしまった「JA農協」の責任とは別の問題です。

今や、国内農業は崩壊の危機に瀕しております。後継者不足、資材の高騰、価格の下落など、まして農業者の6割が65歳以上の高齢者で、しかもその多くは兼業農家です。農地で利益を上げるよりも、チャンスがあれば先祖伝来の田畑を農地転売で売り払って手取り早く金にしたいという兼業農家も少なくないようです。耕作放棄地は東京都の面積の1、8倍39万ヘクタールに及ぶそうです。

ソフトバンクの孫社長がこの放棄地に太陽光パネルを配置して太陽光発電を計画しているとの報道がありました。われわれの先祖が守ってきた農地を耕作放棄地になっているからとの発想で

このような用途に使わせていいか、大いに疑問です。

敗戦直後、GHQの指令に基づき、農村における封建的社会制度を打破するために、昭和22年(1947年)から3年かけて農地改革(農地解放)が行われました。これは政府が不在地主の所有する全ての貸付地、在村地主のうち1町歩までの土地の保有を認め、それ以外の全ての貸付地に該当する農地から安い価格で強制的に買い上げた後にこれをこれまで地主から借りて耕作していた小作人に安く売り渡す制度でした。

これにより昭和26年時点で198万7千ヘクタールの農地を国が地主から買い上げて、土地を耕していた小作人に売渡し、自作農の数は農地改革以前の284万戸から541万戸へと飛躍的に増加しました。

この農地解放により地主階級の中には地代の現物収入の途を失い、戦後のインフレ経済の中で没落して行った者もかなりいました。しかしその反面、都市近郊の旧小作人の中にはタダ同然の安い価格で地主から購入した土地を、その後の高度経済成長期やバブルの時期に高騰した価格で売却し土地成金になり億万長者となった者もかなりいました。

小作人が極めて安い価格で農地を手

に入れることが出来、その結果、自作農が大幅に増えたことは結構なこととされました。

これを経済的、経営的な見地から見れば、大規模農業の細分化に過ぎず、農業経営が著しく非効率なものになってしまったことも事実です。昔の日本語「愚か者」の意味で「たわけもの」というものがありました。が「田分け者」の意味でした。狭い農地を細分化すれば農業経営が成り立たずに共倒れを戒めた言葉でした。

政府も農民もその後ずっと細分化された農業経営にこだわり続けたために、日本の米作農家は国際競争力を失い、毎年莫大な税金の投入によって保護せざるを得なくなりました。現在の米の輸入関税は778パーセントです。

原因は日本の政治家が消費者ではなく、農業を産業ではなく、家業にすることに専念してきたからでした。

こうした農業の現状を見ると、「PPP」参加うんぬん以前にこのままだければ、ほ

どなく日本の農業は滅びるでしょう。それでは、どうすれば日本農業が立ち直れるのでしょうか。

これまで農政学なる学問があり、学者の立場から様々な提言もなされてきたでしょう。しかし、この農業の現状を見るにつけても、それらは机上の空論であった

のではないのでしょうか。それらに頼る時  
間はありません。

今求められるのは、10年先、20年先  
の話ではありません。明日からでも、「  
日も早く打つべき施策です。」

とお笑いでしよう。つてきた各河川の水  
利形態を継続しつつ、愛知用水の牧尾ダ  
ム等の灌漑用水ダムを始め豊川用水、八  
郎潟干拓、琵琶湖総合開発等地域開発の  
代表的手法として農業土木は確固たる  
地位を築くまでに至ったのです。

これらは全て農業の健全な発展があ  
つてのもので。今の農業を見ていると  
残念でなりません。

### 「ネットラジオのすすめ」

石川 吾郎

最近ラジオが見直されているよう  
です。実際に画面を見ていなければなら  
ないテレビに対して、ラジオは聞き流し  
も少しも不自由なく会話や音楽を流し  
っぱなしにして、ちよつと興味のある部  
分だけ耳を傾けるといふ聴き方がある  
のです。

潤いを感じられればこの文章は大成  
功です。ネットラジオは従来のラジオと  
一体何が違うのでしょうか。  
(一)電波状態によって雑音が入ったり聞  
きづらくなったりすることがなく、音が  
キレイであること。  
(二)またその地域の局だけでなく、日本  
全国のラジオ局が聞ける。さらには後で  
お話しするように、世界中のラジオ局が  
聞けてしまうというすぐれものなので  
す。

また最近では、ネットラジオ専用のラ  
ジオ機器が発売されていますが、これは  
まだやや高めなので、まずは以下に述べ  
る方法を試してみられるとよいでしょ  
う。  
ではどうすれば聴けるか。これはしご  
く簡単です。まずパソコンならば、次に  
ご紹介するサイトをヤフーやGoogle。な  
どで検索して、そのホームページからリ  
ンクを選んでスイッチを押せば、すぐ  
にラジオを聞くことができます。

後継者のいない農地に対して戦後の農  
地改革で行ったことの逆のこを行えば  
よいのです。

つまり、かつて農地改革により小作人  
に配分された農地を専業者でも後継者の  
いない農地、兼業農家で後継者がおらず  
ほどなく耕作が出来なくなる農地を効率  
的な営農活動が出来る規模まで再編成す  
るのです。

そうした農地を会社組織を作って営農  
してもよし、JA農協という一番その地域  
での営農技術を持った組織があるのであ  
るから農業協同組合法を改正して、直接  
JA農協が各ブロックごとに営農会社を立  
ち上げて営農事業を行えばよいと思いま  
す。その際、その各ブロック単位での会  
社の従業員として、農業者を雇いその技  
術を活用すればと考えます。

素人が何を戯けたことを言っているか

最近よく話題に上がるのは、従来の AM  
やFMラジオそのものではなく、パソコ  
ンやスマホ、タブレットなどで聴けるネ  
ットラジオというものです。これを知っ  
ているのと知らないのとは大違い。とく  
に音楽の好きな方にはこたえられない  
ものになると思いますので、ここでその  
方法をご紹介します。ネットラジオ  
でみなさんが生活にちよつとした

「Phone・iPad」アンドロイドスマートフ  
ォンあるいはタブレット。このいずれか  
はやはり必要になります。パソコンの音  
質は基本的にはよくないので、ステレオ  
のイヤフォンや外付けのスピーカがあ  
るほうがよいでしょう。イヤホンなら千  
円程度のものでよいと思います(音質  
にこだわる機器の値段は青天井ですの  
で懐と相談をしてください)。  
「Radiko」、「サイマルラジオ」、  
「Radiomy」、「TuneIn(チューンイン)」  
といったものがあります(その他たくさ  
んあると思いますが私がよく聴く者を  
ご紹介します)。  
「Radiko」と「サイマルラジオ」は日本  
語ですので、まずこちらを試してみられ  
るとよいと思います。「Radiko」は主に  
その地域に近いラジオ局、「サイマルラ  
ジオ」は全国のローカルFM局を集めて  
います。

スマートフォン、タブレットでは、それ  
ぞれ「iPod」ならばAppStore アンドロイ  
ドスマホならばPlayストアから専用の  
アプリを無料でダウンロードできます。  
「Radiko」、「Radiomy」、「TuneIn(チ  
ューンイン)」ともに無料のアプリをダ  
ウンロードできます。

私がとくにおすすめるのは

「TuneIn(チューンイン)」のアプリです。これには、世界中のラジオ局が登録されていて、ジャンル別に選ぶことができます。音楽はクラシックから

ジャズ、レゲエ、ロック、世界民謡(日本のアニメソングを流し続けるフランスの局まであります)などあらゆるジャンルがあります。またこのアプリの

いいところは、聴きながら録音ができ、ネットにつながっていないときでも後でまた聴くことができることで

す。

世界中のラジオ局にアクセスできるようにになると考えると、わくわくしてきますねえ。

アプリは基本英語の表示もあるので、単に単語なので、それほど困ることはないと思います。(「TuneIn(チューンイン)」は最近日本語表示に対応

したようです)好きなジャンルの音楽からよさげな局を選んで、とりあえず聞いて見ましよう。音楽の世界が大き

く開けてくることは請け合いです。またラジオ局の中には、ニュースやトク

ク中心のものもありますので、外国語を勉強されている方にも役にたちそうです。英語だけでなく、さまざまなマ

イナーな言語も選べますので、これもgood!

Radikoは、その地域の大手AM局とFM

局、それにNHK、放送大学が登録されていることが多いようです。

残念ながら、地域は限定されて日本の他の地域のラジオ局は聞けません。

サイマルラジオは、全国の地方ローカルFM局を100局以上集めています。東北被災地関連のものもあります。

この中で私のお気に入りのラジオ局は、日本のもので「湘南ビーチFM」。ジャズ関連の音楽と逗子・葉山地域の情報を中心に流していますが、選曲がよくて心地よく、BGMに聞き流していくのに

向いています。耳を塞ぎなくなるような音楽はほとんど流れません。

とりわけ私が入っている番組は「クマクマのMusic In Hawaii」というハワイ音楽の番組。8才になるとい

うなかなか博学な熊さんが、ハワイ音楽を案内してくれます。一押し局です。さらに、「湘南ビーチFM」には、風景を生中継しているカデンツアカメラ

というものがあり、パソコン画面でこれを見ながらジャズを聞くという贅沢を味わえます。この画面は小さいのですが、手前のマリナーにもやうヨットのマ

ストごしに、湘南の海。そこに江ノ島が浮かび、背後には富士山が見えるという

絶景。とくに夕暮れどきに刻々と変わる夕日の色ともやの中から現れる富士山のシルエット、江ノ島の灯台の光、とい

う光景は感動的で見とれてしまうので

す。ぜひおすすめます。

海外のおすすめの局としては、クラシックでは「RadioMozart」。これは

24時間モーツアルトの曲を流し続けている局です。モーツアルトの曲は

「ゆらぎ」といって、人を心地よくさせる要素が多く、しかも快活なものが

多いので、BGMに流しておく作業効

率があがるそうです。

朝にこれを流しておく、爽やかな気分ひたれ一日のエネルギーが湧いてくるような気がします。また

た仕事中にBGMとして流しておく、確かに効率上がるように思います。

尚、ネットラジオを聞くときには、生放送であつても多少のタイムラグが生じて30秒ほどの遅れがあり、従つて

基本的な情報はあります。時計を合わせることはできないので注意が必要

です。蛇足になりますが、最近の自治体の図書館の充実

は目を見張るものがあり、多くのところで、音楽CDや映画のDVDを借り出せるようになってきています。またその図書館のホームページから蔵

書の検索ができたり、登録をしておけば本やCD・DVDの取り寄せ予約もできることが多い(しかも無料で)ので、これを利用しない法はないと思います。以上のような情報が、読者の皆さんの生活に役立つと嬉しい

## 挨拶回り

明石幸次郎

サラリーマンをして8年目の明石は、職種的には購買、資材部門を経験したが、営業部門は初めてであった。挨拶にしても、購買部門は外部からは、営業部門の人に挨拶される側で、どちらかと言うと挨拶されるのに慣れてしまい、つい自分から、挨拶を自ら意識してやる事をしなくなりがちである。それに、生来の無愛想で横着者の明石は、入社して初めて迎えた年末の仕事納めの日に昼から、社内のあちらこちらの関係部門にM課長S・Hの両先輩とT副部長と5人で挨拶周りに出かけ「今年もお世話になりました、来年も宜しくお願いします」と。こべこと頭を下げ回る行為に、大変な違和感と嫌悪感を覚え、何でこちらから、挨拶に向かなければいけないのか、それも、新年明けて仕事始めにも同じ挨拶がくりかえされる。外見だけの頭を下げる行為のために、自分だけ金魚の糞みたいに上司、先輩社員について回り、ニコニコと挨拶し、される側からもニコニコと挨拶を返される、この行為自体に、当時は納得出来ず、逃げ出したかった。その疑問を新入社員の私を指導する立場のSさんに投げかけた。「なぜ、我々だけが、挨拶に向かなければ行け

ないのですか？

関係部門は資材部と対等の立場ではないですか？対等であれば、年末にこちらが挨拶に出向いたのであれば、新年には向こうから挨拶に出向いてくるのがものの道理ではないのですか？会社はそういう道理で動いてないのですか？」それに対して「対等といえば、社内部門を始め、社外の営業部門も皆、人間としては対等であるが、社内部門間、資材部門と外部の営業部門とは、色々な力関係があつて、営業は資材に製品を買ってもらふ為に、頭を下げて、あの手の手を使い受注しようと努める。頭を下げるのは何の違和感もないし、仕事では当たり前のことである。こんな事は、段々と慣れて来て、自然と出来るものなんやね。確かに、君が言う社内部門間に対等であると言ふのはその通りだけど、この会社は、人事部と管理部が力を持っており、会社を動かしていると思つていい。まっちゃん（M資材課長）も、つんちゃん（T副部長）も、何処と無くそれが分かっているんで、何かあれば、挨拶に出向いて、頭を下げていい。会社、世の中は君が言っている人間対等やから、お互いがイーブンで挨拶を交わしたら良いやないか。それは、欧米人の挨拶はそうやけど、

この国は違う。文化、風習の違いや。

この会社は日本の会社、社会の縮図で、会社では、役職があり、社会では家柄、地位があり、お互いが対等ではないわなあ。この会社で君も生きて行こうとしたら、挨拶ぐらい誰に対してもやらないといけない。

この俺も、横柄で評判が悪いが、新入社員で配属されたのが漁師相手のエンジンの営業部門であつた。自然と製品を買つてもらおうとしたら、客先の漁師に用がないので帰れと言われても頭を下げ下げ、話を少しでも聞いてもらふようにもみ手をしたものや。それが、出来るようになった時、この俺もサラリーマンとしてこの会社で生きて行ける自信と覚悟が出来たと今でも思い出す事がある。それに、何でも疑問に思い、おかしいと思うことは、若い社員の感性で感じることは大いに結構なことで、それがないと会社は新入社員を入れる意味がないと思う。会社の中でおかしいと思うことを改めようとするならば、それを時間かけて温めて、浄化させて、味方を得て、その後で君が偉くなつて権力を持てば、出来るかも知れない。それまで、大抵は忘れてしまふか偉くなれば、意識的に変質させるかして、そういつたことは忘れてしまふものや。明石君、ユーミンの歌やないが、「青春の後ろ姿は、人は皆、忘れてしまふー、あの頃の私に戻つて、貴方に会

いたい”あれや。俺も君を見ていたら、

自分の新入社員当時の頃を思い出したよ。まあ、青春の後ろ姿を、それを忘れてしまえる人間しか会社という組織では偉くなれないかもしれないなあ。挨拶は又、それとは別なのやで、日本の風習や。この資材部の慣習と違ったものや。資材部門は皆から頭を下げてもらえる部門だから敢えて、関係部門に頭を下げに行くことはエエことやで。人から頭を下げてもらう事に馴れてしまつている人間は横柄になり、人間的には片輪や。資材部門の我々は相手に頭を下げてもらつてい

るのとは違う、相手はその会社の資材部門と言うポストに頭を下げているだけや。決して頭を下げてもらつたから、偉くなつたのではないよ。君も段々とそれに馴れて来るし、分つてくるよ。ははは「ー」と笑いながら、亡くなった兄と同じ歳のS先輩の私の疑問に対する答えの話は終わった。その話を思い出しながら人事部に向き、同期友人と人事部長、中学時代に勉強を教えてもらつていて、偶然にも中学校卒業以来の何年ぶりかで会社の面接試験の前に会つた人事部係長のYさんに会おうとエレベーターに乗つて1階まで下りて行つた。自ら人事部に向き挨拶に行こうと、それが、出来るようになった自分が、少しはサラリーマンとして成長したのかと、このレベル程度のこと

感心している明石の一方の自分は、俺はやはり、B級サラリーマンや、A級ではないなあと思ひながら、重苦しい人事部の部屋に入つて行つた。

真 無為 無形？

造化者 無私

自然 一？

無名 自生？



「道、ってなんやねん？」③

前回、福永光司先生のおっしゃる「道」の基本的性格六点のうち、第一の「真」についてふれましたが、少し付け加えておきましょう。

「道の物為る、唯だ恍唯だ惚。惚たり恍たり、其の中に象あり。恍たり惚たり、其の中に物有り。窃たり冥たり、其の中に精有り。其の精甚だ真なり」（『老子』第二十一章）

とあるように、「道」という存在はほの暗く、定かならず、その中に何かが存在している。奥深くかすかな中に靈妙な精気がこもっている。その精気は万物を生成する靈妙な働きの中核をなすものです。「其の精甚だ真」、このうえなく純粹で外物に汚されていない。「精」は、人間でいうと、生命を産みだす生殖作用の核となる精気のことです。ここでは、真なる「道」は人間の感覚知覚では把握できない、人間の賢しらはか

らいなどをはるか超えているということを説明しています。

第二は、無為、無形、無名であること。

「道」という実在は否定的な言い方でしか表現できない。

「夫れ道は情（実）あり信あり、為す無く形無く、伝うべくして受くべからず、得べくして見るべからず。自らに本づき自らに根ざし、未だ天地あらざるときに古より以て固く存す。鬼を神にして帝を神にし、天を生じ地を生ず。太極の先に在りて高しと為さず。六極の下に在りて深しと為さず、天地に先んじて生じて久と為さず、上古より長えにして老しと為さず」（『莊子』大宗師篇）

「道」は実在性、真実性がありながらも、何かを為すということもなければ、形もない。それを伝えることができても受けおさめることはできない。身につけることができても見ることはできない。天地が生じる前から存在し、鬼神や上帝を靈妙にして天地を生みだした。天空の先にあつても高しとなさず、世界の下にあつても深いとなさず、天地より先に生まれていても久しいとはいえず、大昔から存在していても古びてはいない。

要するに、はじめに「道」ありきということを否定的な言い方で説明している。ちなみに鬼神とか上帝とあります。が、キリスト教のような人格的な絶対者は老荘では認めません。この点について

は後に触れます。

「物有り混成し、天地に先立ちて生ず。寂たり寥たり、独立して改まらず、周航して殆れず。以て天下の母と為すべきも、吾れその名を知らず。之に字して道と曰い、強いて之が名を為して大と曰う」（『老子』第二十五章）

混沌として一つになった何かが天地開闢以前から存在していた。それはひっそりとして声なく、ぼんやりとして形なく、何ものにも依存せず、何ものにも変えられず、万象にあまねくあらわれて息むときがない。それは、この世界を生み出す大いなる母ともいえようが、私にはその名すらわからないのだ。仮に呼び名を道としておこう。無理に名をつければ、大とも呼ぼうか。

「道」は名づけようがない。無名だということをいつている。老荘にはこのように無という言葉が多くつかわれているのですが、注意しなければいけないのは、仏教の「空」との対比で老荘の「無」が語られることです。仏教の「空」は、存在するものには実体がない、存在するものはすべて因縁によって生じたものであり、自我という実体はない、という般若経思想の根本原理です。老荘の「無」は、実体がない、空無であるという意味ではありません。形がない、色が無い、声がない、というふう

に、否定的な表現でしかそれを説明できないという意味の無です。「物有り混成し」ですから、混成した何かが実在しているわけです。

第三は、「道」は造化者であるということ。「造化」という言葉が最初に使われるのは『莊子』です。

「真」なるものは「道」のあり方、造化の理法そのものであるから、人間はただ己れを虚しくしてこれに従うのみである。己れを棄てて造化の理法に随順していく。「造化随順」は芭蕉が強調した思想です。春になればいろいろな草花が芽吹き、さまざまな虫たちが新しく生まれてくる。生きとし生けるもの、一切万物は造化の働きによって生まれ出て、造化の働きによって死んでいく。「道」から出て、また「道」にかえっていく。一切万物を一切万物としてあらしめるもの、それが造化の理法、「道」である。

「子祀、子輿、子犁、子来、四人相い与に語りて曰く、孰か能く無を以て首と為し、生を以て背と為し、死を以て尻と為し、孰か死生存亡の一体たるを知る者ぞ。吾れ之と友たらんと。四人相い視て笑い、心に逆らう莫く、遂に相い与に友と為る」（『莊子』大宗師篇）

「無を頭とし、生を背とし、死を尻とするのできる者はいるだろうか。生死存亡が一体であることを知る者は誰かいるだろうか」。四人はこういつて笑い、莫逆の友となった。

あるとき突然、子輿が尙痲病におかされた。子祀が見舞いに行つて様子を問うと、子輿が答えた。

「偉なるかな、夫の造物者。將に予れを以て此の拘拘れるものと為さんとすと。曲 僂は背に癢り、上に五官あり、頤は齊（臍）に隠る。肩は頂より高く、句贅は天を指す。陰陽の気は沍うことありと。其の心は間きて無事なり。跼せんして井に鑑しみて曰く、嗟乎、夫の造物者は又た將に予れを以て此の拘拘れるものを為さんとするなりと」（同前）

「偉大なるかな、あの造物者は。私の身体をこんな曲がりくねったものにしてあげているとは」。背が曲がってもりあがり、五臓は頭の上に来て、頤は臍のあたりには隠れ、肩は頭より高く、もとどりは天を指している。子輿は、陰陽の気は乱れているが、心は平静で何事も無い。よろめきながら井戸の水面に自分の姿をうつして、子輿はいう、「ああ、あの造物者はわが身をこのような曲がりくねったものにしてしようとしているのだ」と。

およそ人間の肉体とは思えない怪異の姿に変化したにもかかわらず、子輿は、これも造化のはたらきであると、自己に与えられた現在を肯定するわけである。「造物者」というのは、次章にてでくる「造化者」と同じく、万物を生み出す根源的なものであり、「道」を擬人的に表現した言葉で、人格的絶対者ではない。